

県立高校再編整備計画

平成29年度～平成32年度実施計画（素案）

に対するパブリック・コメントの概要

県立高校再編整備計画 平成29年度～平成32年度実施計画（素案） に対するパブリック・コメントの概要

1 パブリック・コメントの実施状況

(1) 募集期間

平成28年12月22日（木）から平成29年1月25日（水）まで

(2) 公表方法等

県のホームページに掲載するとともに、県庁情報公開センター、各地方県民相談室、山口県税事務所防府分室、各県立高等学校及び県立中等教育学校で自由に閲覧できるようにしました。

(3) 意見の提出方法

郵送、FAX、電子メールにより意見を募集しました。

2 意見の件数

13人、48件

(内訳)

項 目	件 数
平成29年度～平成32年度実施計画（素案）	
1 再編整備	35
(1) 全日制課程	
ア 再編統合	(14)
イ 分校化	(10)
(2) 定時制課程	
(3) 通信制課程	(11)
2 計画の進め方	2
小 計	37
その他	
再編整備全般に係る意見	7
その他の意見	4
小 計	11
合 計	48

() は内数

3 提出された意見及びこれに対する考え方

次ページに掲載

県立高校再編整備計画

平成29年度～平成32年度実施計画の策定に係るパブリック・コメントの概要

■ 平成29年度～平成32年度実施計画（素案）の内容に係る意見（37件）

意見の内容	意見に対する県の考え方
<p>1 再編整備 (1) 全日制課程 ア 再編統合（14件）</p>	
<p>【光高校と光丘高校の再編統合に係る意見】</p>	
<p>○ 少子高齢化が進展する状況の中で、両校の再編統合の方向性そのものは、教育力の確保という面から、やむを得ぬものと考えます。</p> <p>○ 少子化により、統合は避けて通れないものと思う。</p> <p>○ 県東部中学生の減少率を見ると、即座に対応する状況であると考えます。</p>	<p>○ 中学校卒業生数の減少が見込まれる中、選択幅の広い教育や活力ある教育活動の展開、生徒同士が切磋琢磨する環境づくりなど、高校教育の質の確保・向上を図るためには、特色ある学校づくりを推進するとともに、一定の学校規模の確保をめざし、再編整備を進めることが必要であると考えています。</p>
<p>○ 新高校の場所は、光丘が有力との意見もあるようだが、陸上競技場や野球場、雨天練習場などスポーツ施設の整った光高校での開校を希望する。</p> <p>○ 仮に光丘校舎を使用することになった場合、野球場や陸上競技場など、設備をどのように考えているのか。</p> <p>○ 再編統合にあたっては、同窓生や地域の方々の感情にも配慮してほしい。</p> <p>○ 統合後の高校跡地をどうするかも御一考いただきたい。</p>	<p>○ 再編整備にあたっては、2ページの「計画の進め方」の項に記載しているように、小・中・高等学校の保護者など関係者の意見も聴きながら、具体的な学校づくり等について検討します。</p>
<p>○ これから入学する生徒にとって何が最善かをしっかり考えて検討してほしい。</p> <p>○ これから入学してくる若者たちのために活力ある学校教育を提供してほしい。</p> <p>○ 新高校においては、新しいカリキュラムの作成や部活動の活性化など、子どもたちが入学したくなるような魅力ある学校づくりに取り組んでいただきたい。</p> <p>○ 新高校には、普通科、総合学科に加え、ぜひとも体育コースを設置していただき、県東部のスポーツの優秀な子どもたちを集めてもらいたい。</p> <p>○ 光高校OB、光市民としては、新高校が学業、スポーツともに素晴らしいと注目される高校になることを期待している。</p>	<p>○ 再編整備にあたっては、何よりもまず、主役である生徒に質の高い高校教育を提供するという視点に立つことが重要であると考えています。</p> <p>光高校と光丘高校については、再編統合して、新高校を設置する方向で検討し、生徒の大学への進学ニーズ等に対応した選択幅の広い教育を展開するなど、より質の高い特色ある学校づくりを推進します。</p> <p>また、2ページの「計画の進め方」の項に記載しているように、小・中・高等学校の保護者など関係者の意見も聴きながら、具体的な学校づくりについて検討します。</p>

意見の内容	意見に対する県の考え方
<p>○ 再編統合にあたっては、地元に着し、地域から愛されている両校の伝統を引き継いでほしい。</p> <p>○ これまでの光高校、光丘高校の卒業生の思いをしっかりと受け継いだ学校にしてほしい。</p>	<p>○ 学校・学科の再編整備に取り組む中で、各学校の歴史や伝統、地域の特性等を踏まえた特色ある学校づくりに努めます。</p>
<p>1 再編整備 (1) 全日制課程 イ 分校化(10件)</p>	
<p>【西市高校の分校化に係る意見】</p>	
<p>○ 高校がなくなると地域は活力が失われていくのではないかと心配している。形は変わっても豊田町に西市高校が残ると聞いて安心した。</p> <p>○ どこかの学校に統合されると思っていたが、分校化ということで少し安心した。</p> <p>○ 少子化の影響で、分校化されるのは仕方がないと思うが、廃校にならないようお願いする。</p> <p>○ 西市高校の施設は充足しているので、他校と合併して施設の有効利用ができるようにしてほしい。</p> <p>○ 分校化というよりも校舎化を要望する。「○○分校」ではなく、「○○校舎」という名称にしてほしい。</p>	<p>○ 中学校卒業生数の減少が見込まれる中、選択幅の広い教育や活力ある教育活動の展開、生徒同士が切磋琢磨する環境づくりなど、高校教育の質の確保・向上を図るためには、特色ある学校づくりを推進するとともに、一定の学校規模の確保をめざし、再編整備を進めることが必要であると考えています。</p> <p>「県立高校再編整備計画」では、1学年2学級の学校について、生徒の通学実態等から望ましい学校規模の確保をめざした近隣の学校との再編統合が困難な場合には分校化を検討することとしています。</p> <p>西市高校については、様々な観点から検討した結果、近隣の高校との再編統合は困難であると考え、入学状況などを見ながら、分校化に取り組むこととしました。</p>
<p>○ 魅力があり、入学志願者が増えるような学習内容、教育課程の編成を考えてほしい。</p> <p>○ 公立の大学等への進学にも対応できる学校づくりをしてほしい。</p> <p>○ 農業の重要性を重視し、県の西部の農業を中心とした学習ができる高校として残してほしい。</p> <p>○ 地元との連携が保てるように、連携事業を強化して地域の活性化につながるようにしてほしい。</p>	<p>○ 再編整備にあたっては、生徒のニーズを踏まえた教育を提供するという視点に立つことが重要であると考えています。</p> <p>2ページの「計画の進め方」の項に記載しているように、小・中・高等学校の保護者など関係者の意見も聴きながら、具体的な学校づくりについて検討します。</p>
<p>○ 「魅力ある学校づくりを進めるとともに、分校化に取り組みます」の意味がよくわからない。存続するのかどうか、矛盾しているようにも聞こえる。</p>	<p>○ 御意見を踏まえ、わかりやすく修正しました。</p>

意見の内容	意見に対する県の考え方
1 再編整備 (2) 定時制課程 (3) 通信制課程 (11件)	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 県央部における多部制の高校は理解できる。 ○ 県内に1校しかなかった“午後部”の実績から多部制を設置することは理解できる。 ○ 県央部に検討される“午前部”の必要性の根拠がよくわからない。他県の定時制午前部の成果も、本県で今後有効なのかははっきりしないと思う。 ○ 安易に“午前部”の定時制を設置するのではなく、まずは都市部の全日制課程に、柔軟な教育課程と学習環境をもつ教育の場を拡充していくことが大事だと思う。 ○ 他地域の定時制課程の高校の再編統合には、地域の実情を踏まえた上で取り組んでほしい。 ○ 定時制課程の現状をしっかりと把握した上で、この案が検討されているのだろうか。 ○ 現在定時制空白区域である北浦地域などへの新設にも努力してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定時制・通信制課程は、以前からの「働きながら学ぶ」生徒に加え、不登校経験者や全日制課程からの転入学者、中途退学者など、様々な入学動機や学習歴をもつ生徒が学ぶ場となっています。 こうした生徒の多様な学びのニーズに対応し、生徒が自分の生活時間に合わせて学ぶことを可能とする新しいタイプの多部制定時制課程の設置に取り組みます。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 下関市に生徒が自分の生活時間に合わせて学習できる、新しい学校ができると聞き大変興味をもっている。子どもたちが、いきいきと学習できるような学校ができることを楽しみにしている。 ○ 定時制教育では、「1クラス10～20人の定員」が、丁寧な教育と質の確保を行うための数である。定員40名に近い学級が“午前部”や“午後部”にできたとしても、後期中等教育の“質”は保障も向上もできないと思う。 ○ 特別支援学校が併置される例は、山口県では未知の領域である。実際に教育活動を行う教職員や、進学予定の本人・保護者を含め事前にしっかりと協議する機会を設定してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 再編整備にあたっては、生徒のニーズを踏まえた教育を提供するという視点に立つことが重要であると考えています。 2ページの「計画の進め方」の項に記載しているように、小・中・高等学校の保護者など関係者の意見も聴きながら、具体的な学校づくりについて検討します。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 下関地域の多部制高校は、定時制だとしても全日制との時間差があまりなく、私学を圧迫する可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県教育委員会では、県立高校と私立高校が、それぞれの特性を踏まえ、連携しながら公教育の充実に取り組む中で、より質の高い高校教育の推進に努めます。

意見の内容	意見に対する県の考え方
2 計画の進め方（2件）	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 県民からの意見募集の他に、住民・関係者・専門家からの直接の意見聞き取り等の実施をお願いします。 ○ できるだけ早く新しい学校の情報を提供していただき、中学生が安心して志願先が選択できるよう配慮してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2ページの「計画の進め方」の項に記載しているように、小・中・高等学校の保護者など関係者の意見も聴きながら、具体的な学校づくりや実施時期等について検討します。 各年度の実施分については、中学生に早期に情報提供する必要があることから、原則として当該年度の募集定員の発表前に公表します。

■ **その他の意見（11件）**

これらの他に、次のような御意見もありました。今後の参考にさせていただきます。

再編整備全般に係る意見（7件）
○ 集団教育の必要性や学習環境の効率化のため統廃合は仕方のない流れである。
○ 部活動や学校行事などを考えると、規模の小さな学校を残すよりもある程度の規模の学校として統合した方が、子どもたちの学習環境としてはよいと考えている。そのために高校の数が減少していくことはやむを得ない。
○ 柳井地区においても、県東部の中学生数を考慮すると、スピーディに再編整備による対応を図っていくのは必須である。
○ 生徒が減少したから、しそうだからと安易に統合を進めているように見える。学校の統合は最後の手段であり、まずは県の出先機関を統合廃止すべきものとする。
○ これまでの再編統合と同様に全体的な印象として、単純な「効率」や「対費用効果」としての再編整備計画と感じる。
○ これまで行った統廃合が地域に及ぼした影響について、検討されているのか。
○ 高校存続の運動があれば、町立高校、市立高校にできないか検討をしてはどうか。
その他の意見（4件）
○ パブコメについては、意見募集期間に年末年始も含めた上で、かつ同時期に他部署も実施する中で通常と同様の1ヶ月の期間設定は短いと感じる。意見募集について、期間の延長又は再実施を求める。
○ 今回の意見募集の広報・記事の扱いがどの程度あったのか。一般県民が広く目にする新聞にどう広告掲載・記事掲載したのか。
○ 実績・見込みなどの具体的な数値無しで計画（素案）のみ提示されても判断が困難である。
○ 可能であれば年代は元号と西暦を併記してほしい。